

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100038		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームことづか れんげ草		
所在地	岐阜県岐阜市琴塚1-7-12		
自己評価作成日	令和5年2月2日	評価結果市町村受理日	令和5年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190100038-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190100038-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年2月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和4年度はコロナに振り回される1年となりましたが、中でも利用者様に季節感を感じ楽しんで頂ける様毎月の行事や壁画に力を入れてきました。少しコロナもおさまると、相談室での面会や防疫対策を行いながらの外出支援を行い皆様に少しでも喜んで頂ける様実施して参りました。徐々に自治会のXmasコンサートにも参加する事が出来利用者様にも笑顔が戻ってきたように感じます。又コロナ禍の中職員の家庭内感染は多々ありましたが、いかに利用者様への感染を防ぐかに重点を置き、防疫対応をして参りましたので2022.2月以降は利用者様への感染を防ぐことが出来ています。気を緩めることなく利用者様への感染を防げるよう防疫対策の徹底を図って参りたいと思います。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

《コロナ禍により電話ヒアリングに代えて実施した》  
 コロナ禍ではあるが、利用者がホームの生活に季節感を感じ、閉塞感を軽減できるように支援している。季節感を感じられる飾り付けをしたり、感染対策を講じた上で自治会のクリスマスコンサートへの参加や、日常的な散歩・外食などの支援をしている。ホーム内でも季節感のある行事を行っており、利用者の楽しみとなっている。  
 利用者への感染防止策を徹底して行った。その結果、感染を防ぐことが出来たことは、今後の感染症対策にも活かせると考えている。  
 勤続年数の長い職員が多く、働きやすい環境があることが推察でき、職員からも「働きやすい職場である」との声を聴くことができた。このことは、「質の高いサービスの提供」に繋がる一つの要因であり、ホームの今後の取組みにも期待できる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ことづかの理念と合わせ、メディカルのビジョンを共有し唱和している。	法人の理念とホーム独自の理念を職員に周知し、認知症ケアについてのビジョン・ミッションを共有している。日々、唱和することで常に意識し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍という事もあり中々交流の機会が無かったが、12月に行われたクリスマス会に参加させて頂き交流の機会を設けることが出来た。	コロナ禍によって地域の行事が中止になっており、交流機会を持つことが難しいが、自治会のクリスマスコンサートは開催され、参加することが出来た。今後も状況を見ながら取り組んでいく用意がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は認知症サポーター等開催する事が出来ていないが、自治会の回覧板やホームページのブログ等を通じてことづかの取り組み等ご紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ集合形式にて行う事が出来ていないが、ことづかでの出来事や、議事録にて行政や、地域包括や民生委員さんにご報告をしてご意見を頂戴しながらサービス向上に活かしている。	運営推進会議は書面での開催となっている。議事録にて、ホームの取組み・利用者の状況について報告しており、FAX等で返信が得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政との連絡事項など、メールでのやり取りも多くなっているが、取り組みなどは運営推進会議にてご報告させて頂いている。	行政担当課とは、FAXやメールでのやり取りが主となっている。情報交換・意見交換は出来ており、ホーム運営に支障はない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に不適切ケアの研修を行い、職員全員が高齢者虐待や、身体拘束について学びケアに活かせる様取り組んでいる。	法人の研修計画があり、定期的に研修を行っている。「不適切ケアチェックシート」を用い、自らの振り返りの機会も定期的にある。職員は身体拘束に対する理解があり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に不適切ケアの見直しをしながら、カンファレンスやホーム会議にて議題に取り上げ話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護についての研修も行き、その中で成年後見制度について学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時等は直接ご連絡をさせて頂き、納得がいく説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にご意見箱、年に1回はご家族様アンケートを行い、ご家族様の意向などを把握出来る様にしている。	利用者からは、日々の関わりの中で意見や要望を聞くように努めている。家族からは面会時や電話で話を聞くようにしており、把握した意見や要望は記録に残し、必要に応じて検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回職員向けのアンケートが行われ職員の思いを確認する機会がある。又定期的に職員面談を行い、職員の意見を聞く機会を設けている。	職員とは日常的に話をする機会を持っており、意見や提案・思いを聞くことが出来る。定期的な面談や職員アンケートも行われ、意見や要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社にキャリアアップ制度が設けられており、やる気のある職員は向上心を持ちステップアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得援助に力を入れており、現在はズームでの研修となりますが、法人内外の研修を受けることが出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍ということもあり、外部との交流は少ないが他ホームとはズームにて事例を通じて活動の報告等意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメント時にご本人やご家族様からのご意向を頂戴し、ご本人が安心して過ごせるような環境を整え良い関係が築ける様務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回アセスメント時にはご家族様のご要望に耳を傾け、ご本人様の意向が確認できる場合はご意向もお聞きし、良い関係作りが築ける様務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントをもとにユニット会議を開催し、必要な支援やサービス内容を検討し対応出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介助者ではなく利用者様のペースに合わせ生活して頂ける様配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回お便りを発行しその中でご利用者様のご様子等をお知らせをしている。面会に来られないご家族様にはメールにて要望等をお聞きし、ご家族様との関係性を保っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ということもあり、面会や外出に制限があり馴染みの方と会う機会も少ないですが、出来る限りご家族様を通じて、関係性が途切れない様に配慮しています	利用者と家族や友人・知人の関係を大切に、家族の協力を得ながら、関係を継続できるように支援している。コロナ禍であり、面会には制約を設けており、感染状況を見ながら行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性や性格を把握して、状況に応じ席替えをしながら関係性の調和を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養など他施設に移られた方等、ケアマネさんを通じて状態把握に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスにて個々のニーズを考えた り、日常生活の中から希望や思いを汲み取れる様に努めているが、困難な場合は本人本位に検討している。	利用者の意向や思いは、日常の関わりの中で、会話や表情・仕草などから推察することが多い。情報として記録し、職員間で共有・検討し、提供するサービスに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に現在の状況や生活歴、これまでのサービス利用等をお聞きする様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りのなかで、生活スタイルや、その方の有する力、心身状態などの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新前にユニットごとにカンファレンスを行い、職員の意見を反映しニーズや短期目標等を決め介護計画を作成している。	毎月モニタリングが行われ、提供するサービスの評価を行っている。介護計画の更新時にはカンファレンスを行い、記録や職員の意見を検討し、新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をノータス(携帯記録)に入力しモニタリングにて確認を行い、カンファレンスにて職員の意見交換や情報共有しながら介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々、職員同士で支援の方向性を考えサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ということもあり、外出が減ってしまっただが、落ち着いている時期には自治会清掃や、自治会開催のイベントに参加出来る様になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在全員の方が、ことづかの提携医となっており、主治医は事業所との関係性もよく、受診等もスムーズにいき、適切な医療を受ける事が出来ている。	協力医の訪問診療が月に2回あり、緊急時には24時間の対応が可能である。協力医以外の受診は家族対応となっているが、場合によってはホームで対応することも可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師に来て頂き、状態などの相談をしたりしながら、早期対応が行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在コロナ禍の為入院した際にご本人に会う事は出来ませんが、状態などは病院関係者との情報交換を行い、早期退院への相談が出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化した時の方針について詳しく説明をしている。ご家族様がホームでの看取りを希望された際は主治医との連携を図りながら、今後の方針を決めている。	利用者の重度化・終末期については、ホームの指針があり、利用者・家族に説明している。重度化が認められた場合、医師を含めた話し合いが行われ、方針を決めて支援している。緊急時の対応マニュアルも整備されており、研修で職員に周知している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内で緊急時の対応についての研修をしている。マニュアルも各ユニットにおいてあり、実践できる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施しており、年1回は消防署立会いの下、消火器を使った実地訓練も行っている。又行政に避難確保計画書も提出しており自治会との協力体制も整っている。	年に2回行われる訓練の中で、利用者による消火訓練や避難方法の確認を行い、災害に備えている。自治体との協力体制も整っており、停電対策として非常用電源も導入した。	非常用電源は誰でも使用できることが大切で、防災訓練の際に実際に使用してみようことを提案したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケアへの取り組みのなかで、言葉使用に関してや対応の仕方に関してはホーム会議で話し合う機会を設けている。	接遇やプライバシー保護・羞恥心への配慮などの研修や、勉強会が行われている。「不適切ケアチェックシート」の項目にもあり、利用者に対して適切な対応が行えるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から、ご本人の思いを導きだしたりご本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段の生活リズムを把握し、ご本人のペースに合わせた支援が出来る様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際に服の好みがある方はどの服が良いか選んでいただいたり、介助型の方に関しては職員が整容等を行い身ぎれいにして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の日などに出来そうなことがあれば、切ったり、炒めたりとお手伝いをお願いしている。食事が摂れない方に関して、好きな物や食べることが出来る食品をご用意している。	調理担当職員の配置があり、利用者は自身が出来るところを一緒に行っている。毎月イベント食が提供されており、季節に因んだメニューは利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の考えた調理指示書にそったメニューを提供しているため、栄養バランスは整っている。個々の噛む力に応じて、食べにくい物は一口大に切ったり、ミキサー食にしたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1回訪問歯科にて口腔ケアを行い、通常自立の方には、口腔ケアを促し、嚥下状態の悪い方に関しては、毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすことは出来ていないが、定期的にトイレ誘導を行ったりしながら1人1人の排泄パターンを把握する事は出来ている。	トイレでの排泄を基本に支援している。利用者個々の状況に合わせた支援に努めており、排泄用品の選定や介助方法を検討している。排泄支援については、研修も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方に関しては、乳酸菌飲料やミルク、豆乳等種類を変え提供する事が出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が楽しめる様に入浴剤を入れたり、個性のある特定の方に関しては、固定の男性職員の時にしか入浴をされない為、職員もローテーションを組み入浴日を設けている。	週に2~3回の入浴を支援している。利用者の体調や意向に配慮し、入浴拒否に対しても無理強いしない支援に努めている。排泄支援と同様に、羞恥心やプライバシーに配慮して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースで自由に休んで頂き、介助型の方に関しては定期的に休息時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬ミスなど無い様服薬数を把握しており、変更があった場合は申し送りを行い各自服薬情報を確認する事が出来ている。薬の変更時は訪問薬剤師との連携を図りアドバイスを頂いたりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自立の方には役割分担を決め、手伝っていただいたり、全体での行事や個別でのレク等に参加して気分転換できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は散歩に出かけたり、お正月には近くの白山神社に初もうでに出かけている。コロナ禍ではあるが誕生日外出等行い、おいしいものを召し上がって頂ける様にしている。	コロナ禍ではあるが、感染状況を見ながら感染対策を講じた上で支援している。近隣の神社への参拝やホーム周辺の散歩、外食などの支援がある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は小口の現金を預からず、立替払いをしている為、ほとんどお金にふれる機会がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方はいないが、時々かかってくる電話にはおつなぎしている。送付されてきたハガキ等はお渡ししているが、ご本人からの返信は中々出来ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には四季折々の掲示物が貼られているが、少しでも季節感を感じ居心地よく過ごして頂ける様な工夫をしている。	電話ヒアリングに代えて実施したため、視察出来ていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合った方同士でお話したり、共有スペースでトラブルが発生しない様職員が席替えを考えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は居心地良く過ごせるように、ご家族にお願いをして、なじみの物をもってきてもらえるように連絡したりしている。	電話ヒアリングに代えて実施したため、視察出来ていない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく自立した生活が送れるように、トイレや居室など分かりやすいように掲示したり、安全に歩行できるような環境を整えている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100038		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホームことづか いちいの木		
所在地	岐阜県岐阜市琴塚1-7-12		
自己評価作成日	令和5年2月2日	評価結果市町村受理日	令和5年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ligyosyoCd=2190100038-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ligyosyoCd=2190100038-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年2月21日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ対策など大変な時もありましたが、クラスターも起きずに過ごすことができました。寒い中でも換気するねとの声掛けにも「良いよ」と言っていたり、消毒すると「ありがとね」とお礼を言われる方もいます。コロナの感染症が少し分かる方はご自分の部屋の換気をされたり、換気と消毒も日常になってきたようです。感染者数が落ち着いてくると相談室での面会も再開でき、ご家族にも面会を喜んで頂けました。感染対策をしながら自治会のXmasコンサートにも久しぶりに参加する事ができ、利用者様も笑顔で楽しまれたようです。新年のウサギの干支づくりでは、普段包丁を使わない方にも側についてサツマイモを包丁を使って切って頂くなど、こちらはドキドキでしたが、新しい発見がありました。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ことづかの理念と共に本社のビジョンを申し送り時に読んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染が落ち着かず地域との交流の機会も減ってきたが、12月に行われたクリスマス会に久しぶりに参加することができ、交流の機会をもてた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座等実施する事が出来ていないが、自治会の回覧板や会社のホームページでのブログを通してことづかの取り組みを紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナの感染対策もあり、面会にて実施出来ていないが、ことづかでの行事の様子、議事録を行政や地域包括支援センターや民生委員さんに報告すると共に意見を伺いサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政機関との連絡はメールでのやり取りも多くなっていますが、ホームでの取り組みなどは運営推進会議の時に報告させて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止事項に当たらないよう、ユニットの行き来など身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にホーム会議の場などで不適切ケアの研修を行い、職員全員が高齢者虐待や、身体拘束について学ぶ機会をもうけケアにいかせられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員はホーム内研修を通して日常生活自立支援事業について学ぶ機会を持ち、成年後見制度についても学ぶ機会をもてるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時等は直接連絡しご家族の不安を解消できるよう、納得がいく説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先にご意見箱、年に1度ご家族様アンケートで意見などを伺い把握し、運営には反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回職員向けのアンケートを実施し職員の思いを確認したり、定期的に職員面談を行って意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度が設けられており、勤務状況を把握し、やる気のある職員は向上心を持ちながらやりがいをもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得援助に力を入れており、現在はオンラインでの研修となりますが、法人内外の研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染症対策ということもあり、事業所との交流は少ないが、他ホームとはオンラインでの事例発表を通じて活動の報告や交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメント時にご本人やご家族からの希望等をお聞きし、入居後にご本人が安心して過ごせるような環境を整え良い関係が築けるよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回アセスメント時にはご家族様のご要望に耳を傾け、ご本人様の意向が確認できる場合はご本人様のご意向もお聞きし、良い関係作りが築ける様務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントをもとにユニット会議を開催し、必要な支援やサービス内容を検討し入居後に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のペースに合わせて過ごせるように、共に暮らす仲間となるように関係づくりなど配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回お便りを発行しその中で利用者様の様子や行事での様子等をお知らせをしている。面会に来られないご家族様にはメールにて要望等を伺ったりと共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症対策で面会や外出に制限がある時もあり、顔馴染みの方と会う機会が減ってきていますが、オンライン面会等を通して関係性が途切れないように配慮しています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者様の個性や性格を把握して、必要に応じて席替えをしながら、暮らしやすいように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養など他施設に移られた方等、様々な機会を通じて状態把握に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット会議にて一人ひとりのニーズについて考えたり、日常生活の中から本人の希望や思いを汲み取り、困難な方の場合にはご家族から昔の様子を伺ったり、望みそうなことを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に現在の状況や生活歴、これまでのサービス利用歴をお聞きしたり、サービス利用時にどんな状態だったが把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りのなかで、その方の生活ペースや希望、今できる事ややりたい事など現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新前にユニットごとにユニット会議を開催し、課題や支援についてそれぞれの意見を出し合い反映しながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をノート(携帯記録)に入力しモニタリングにて確認を行い、カンファレンスにて話し合いを行い介護記録の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて必要なサービスを提供できるよう、サービスの多機能化や支援の方向性を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症対策で、外出が減っているが、地域清掃やクリスマスコンサート等豊かな暮らしを送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望を大切にし、希望された主治医との連携を図り適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が訪問して状態観察や病状について相談している。必要に応じて早期受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して治療に専念できるように支援している。また退院時は看護師さんや主治医と話せる時はご本人の状態について伺い、退院後に気をつけることなどアドバイス頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に将来重度化した時の方針について説明している。ホームでの看取りをご家族が希望された時は事業所で出来ることを十分に説明し、主治医や訪問看護師との連携を図りながら、今後の方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム会議やホーム内研修で緊急時の対応について学んでいる。マニュアルも各ユニットにおいてあり、実践できる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しており、うち1回は消防署立会いしてもらい消火器を使った実地訓練も行いアドバイス頂いている。また災害時の非常食も常備しており、自治会との協力体制も整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々関わる中で一人一人の思いや人格を尊重し、プライバシーを傷つけない言葉かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつがいくつかある時に何が食べたいか選んでもらったり、飲み物もご自分で選べれる方には選んで頂いたり、自己決定できる時は選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活ペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそった支援をこころがけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際に服の好みがある方はご自分の希望の服を着ていただいたり、選べない方もその人の好みそうな服を用意したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の日に野菜の皮むきや切ったりと出来そうなことをお願いしている。左利きで切れないと言われる方は炒めたり等、その方ができそうな事をお願いしている。片づけはあまりされていない。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社の管理栄養士の考えた調理指示書にそったメニューの提供を心掛けている。栄養バランスを考えたり。個人の状態に応じて、食べにくい物は一口大に切ったり、ペースト食にしたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	希望された方は週に1回訪問歯科衛生士の口腔ケアを受け、状態を確認してもらっている。状態に応じて歯科医師と連携を取っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声掛けや出来ることはしてもらえるように自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自立支援の取り組みとして、水分提供の機会を増やしている。なるべくと糖分の高いジュース類ではなく、お茶を提供できるように心がけている。摂取量の少ない方は好みの飲み物を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の好みの温度で入浴できるように調整したり、入浴の仕方、ペースに沿った支援を心掛けている。なるべく好みの入浴方法にて入浴していただけるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせて昼寝の時間を設けたり、夕食後におしゃべりに花が咲いたときは一区切りつくまで話して、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤師と連携を図りながら薬の変更時や使用時にはアドバイスを頂いたり、嚥下に依りて粉碎の相談などしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じて役割分担を決め、お手伝いをお願いしたり、行事や個別でのレク等に参加して気分転換できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日や天気の良い日は散歩に出かけたり、お正月には近くの白山神社に初もうでにでかけることができた。コロナ感染症対策をしてクリスマスコンサートにも出かけることができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は小口の現金を預かっていないため、ほとんどお金にふれる機会がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をこちらからかけることはほとんどないが、かかってきた電話には出れるようにつなぐなど支援している。年賀状やはがきなど届いたものを手渡したり、部屋に掲示したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなどに季節に応じた飾り物を飾ったりしている。利用者様どうして掲示物を眺められたりして会話されている姿も見られる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合うお友達と昔話をされたり、塗り絵をされる時には何色にしようかと相談される姿も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物やご本人の好みそうなものをご家族がもってきてもらえるように連絡したりして、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室が良く分かるように名前を掲示したり、廊下に物を置かないなど安全に歩行できるような環境を整えている。		